
はじめに

金沢大学大学院人間社会環境研究科では、平成 24 年度における改組にともない、人文学専攻に文化資源学コースが設置された。人文学専攻では、専門深化型プログラムと学際総合型プログラムというふたつの大きなカリキュラムの枠をあらたにもうけたが、文化資源学コースの関連領域としては、専門深化型プログラムに文化遺産学、比較文化学、文化人類学の 3 つのプログラムを、学際総合型プログラムに文化資源学の 1 プログラムを提供している。

このうち、学際総合型プログラムの文化資源学には、必修科目として「文化資源学概論」がある。2 年間の博士前期課程のカリキュラムの入門的な授業に位置づけられる科目である。さっそく平成 24 年度の前期に、金沢大学のさまざまな分野の教員の協力を得て開講された。その授業の実績をふまえ、次年度以降の授業でも活用できる教科書として編纂されたのが、本書『文化資源情報学』である。

金沢大学人間社会研究域には附属の研究機関として国際文化資源学研究センターが設置されている。同センターの活動内容のひとつとして、若手研究者の育成や大学院教育への貢献がある。人文学専攻に設置されたコースやプログラムの名称に「文化資源学」があらわれるのはそのためである。「文化資源学概論」の担当教員の多くも、同センターのスタッフである。

また、金沢大学人文学類(学士課程に相当)にはフィールド文化学コースがあるが、大学院の文化資源学コースはこのコースと密接な関係を持ちつつ、さらに発展的な教育・研究を行うことをめざしている。フィールド文化学コース出身者の進学先であると同時に、他分野、他大学からの入学者も広く受け入れて、日本では数少ない文化資源学に関する大学院レベルの教育センターとして、国内外から注目を集めている。

金沢大学では、平成 24 年度文部科学省博士課程教育リーディングプログラム採択事業として「文化資源学マネージャー養成プログラム」(複合領域型 多文化共生社会)が採択された。このプログラムでは、5 年一貫の大学院教育によって文化資源マネージャーを養成するが、とくに博士前期課程では、学際総合型プログラムの文化資源学と重なる部分も多い。本書はこのリーディングプログラムの入門書のひとつとしても活用される予定である。

国際文化資源学研究センターからは、すでに『テキスト 文化資源学』(金沢大学 2011 年)が刊行され、その一部の英語版も *Cultural Resource Studies: An Introductory Textbook* (Kanazawa University 2013) が準備されている。本書はその続編に位置する。

前著が、おもに文化資源学の理論と調査方法をあつかったのに対し、本書は文化資源にかかわる情報を収集した後に、それをどのように整理、活用し、社会に還元するか
に焦点を当てた。タイトルを『文化資源情報論』と名付けたのはそのためである。本
書の内容は、各執筆者が属する分野の多様な方法を示すとともに、これから、文化資
源学の情報理論を構築していく上で、有益な情報をもたらす。あわせて、人文科学や
文化研究における情報管理の入門的な内容を、前半に〔基礎編〕として置いた。この
部分は学部レベルの情報管理教育においても利用できるよう意図した。

なお、本書は金沢大学における平成 24 年度大学院改革事業費による大学院教育改
革の活動成果の一部である。

2012 年 3 月

森 雅秀